

「諏訪史第一巻」刊行100年を記念

土偶や非生活的道具紹介

原村の八ヶ岳美術館で、企画展「諏訪史第一巻」刊行100年記念展」が開かれている。諏訪地方の考古館・博物館など7施設合同企画展の一環。同館では「縄文時代観と原始芸術」と題して2部に分け、第一巻に掲載された縄文の土偶や非生活的な道具などの紹介、著作に寄与した、考古学者であり美術に造詣のある上諏訪町（現諏訪市）出身の両角守一（1897～1936年）旧蔵の同館所蔵資料などを展示している。23日まで。（町田陽）

八ヶ岳美術館で企画展



「縄文時代観と原始芸術」をテーマに、諏訪史第一巻に掲載のユニークな遺物が並ぶ八ヶ岳美術館の展示

第1部の「縄文時代観 土偶と非生活関連資料」では、諏訪地方で出土した土偶をはじめ、さまざまな型の耳飾りや独鈷石、土版などのほか、第一巻に登場する同村の恩膳遺跡から出土した土器の破片や石器、深鉢などを展示。併せて、芸術性の高い村内出土品も紹介している。

第2部の「原始芸術と考古学」では、第一巻の執筆に当たった鳥居龍蔵の調査に協力した両角のアルバムとともに、鳥居が両角とその芸術を論じ、第一巻にも掲載された彫刻家オシップ・ザッキンの作品、原始芸術に影響を受けた芸術家の岡本太郎の版画作品なども展示。考古学と芸術の両面が見られる資料の数々が並ぶ。開館は午前9時～午後5時（最終入館午後4時30分）。会期中無休。

「縄文時代観と原始芸術」テーマに